

## 2014年度「ジェロントロジー（老年学）研究助成」の決定と 「ジェロントロジー研究報告No. 11」の発行について

損害保険ジャパン日本興亜株式会社（社長：二宮雅也、以下「損保ジャパン日本興亜」）が出捐している公益財団法人日本興亜福祉財団（理事長：二宮雅也、以下「日本興亜福祉財団」）は、2014年度「ジェロントロジー（老年学）研究助成」として18件、総額800万円の助成を決定するとともに、2012年度ジェロントロジー研究助成者の研究成果を取り纏めた「ジェロントロジー研究報告No. 11」を発行しました。

### 1. 「ジェロントロジー（老年学）研究助成」の概要

「ジェロントロジー（老年学）研究助成」は、高齢者福祉の増進に寄与する社会科学分野における独創的・先進的な研究を支援することを目的としています。1993年に創設以来、隔年で実施しており、本年度で12回目になります。

### 2. 2014年度助成先について

今回の助成は、2014年4月下旬～7月末日に全国の大学、研究機関、教育機関、高齢者施設等を対象に公募を行い、応募のあった52件について選考委員会に置いて厳正な審査を行った結果、18件の研究に総額800万円の助成を決定しました。

### 3. 「ジェロントロジー研究報告No. 11」について

前回（2012年度）の助成先において、1年4ヶ月の期間を経てまとめられた研究成果を「ジェロントロジー研究報告No. 11」（B5版・139ページ・非売品）として発行しました。本報告書は、17の研究成果を収めており、高齢者介護に関する問題から認知症に関する研究まで幅広いテーマを取り上げています。（詳細は別紙参照）

#### 【ご参考】

##### ☞日本興亜福祉財団について

日本興亜福祉財団は、1991年7月25日、日本火災海上保険株式会社（現：損保ジャパン日本興亜）の出捐により、同社の社会貢献活動の一翼を担う財団として設立されました。同財団の主な活動は本助成のほか、在宅で高齢者を介護する家族の交流・研修支援事業、介護福祉士を目指す学生への奨学金給与事業および独自の老年学研究事業です。

##### ☞ジェロントロジー（GERONTOLOGY・老年学）とは

ジェロントロジーとは、老化と高齢者に関する諸問題を研究するもので、生物学・生理学・医学・経済学・社会学等の幅広い領域を持つものです。1950年に第1回国際老年学会がベルギーのリエージュで開催され、国際的な学問としての市民権を初めて確立しました。1959年には日本老年学会が発足し、1971年に東京都老人総合研究所ができ、研究が進んできました。現在さまざまな学問分野で高齢者や高齢社会の抱える問題を対象とした研究が行われています。

我が国における65歳以上の高齢者人口は、1950年には総人口の5%未満でしたが、現在は25%以上になり、2035年には33%を超えて3人に1人が高齢者になると予想されています。超高齢社会となった現在、ジェロントロジーの社会科学分野における研究助成及び若手研究者の育成は最も重要な課題のひとつであると本財団は考えています。

## ジェロントロジー研究報告 No. 11

## ■研究課題 : ジェロントロジーに関する社会科学分野における独創的・先進的な研究

No	形態	対象者※	所属	研究テーマ
①	個人	森 明子	認知症介護研究・研修大府センター	認知症高齢者と介護スタッフのコミュニケーションに役立つ写真集の開発に関する研究
②	個人	和田 裕一	東北大学大学院 情報科学研究科	高齢者のパーソナルコンピュータの利活用が生活の質(QOL)向上に及ぼす影響
③	共同	小野 ミツ	九州大学大学院 医学研究院	高齢者虐待防止にかかわる保健福祉職員のメンタルヘルス支援プログラムの検討
④	共同	山田 陽介	国立健康・栄養研究所 基礎栄養研究部	日記と活動量計の配布による自己管理型生活改善介入プログラムが老年期うつ状態に与える影響
⑤	共同	増井 幸恵	東京都健康長寿医療 センター研究所	超高齢者の精神的健康の維持に寄与する対人関係のあり方に関する研究 -老年的超越の発達を指標として-
⑥	個人	松本 望	日本社会事業大学 大学院 社会福祉学研究科	認知症グループホームにおける「虐待リスク評価尺度」の開発
⑦	共同	田中 元基	淑徳大学大学院 総合福祉研究科	認知症高齢者が認識する場所の生成・変容プロセスの相互行為分析
⑧	共同	永田 千鶴	山口大学大学院 医学系研究科	認知症高齢者の在宅療養継続支援、および在宅移行支援のための医療と福祉(介護)、本人・家族との地域連携システムの構築
⑨	共同	吉本 照子	千葉大学大学院 看護学研究科	自律的な訪問看護師をめざす新卒者のための学習支援ツールと適用モデルの開発 -少子高齢社会の在宅医療福祉を支える訪問看護の質確保に向けて-
⑩	個人	西岡 正子	佛教大学 教育学部	高齢者のパソコン、タブレット、インターネットの活用と生活の充実・向上-個性を重視した学習と社会的繋がりを求めて-
⑪	共同	中川 威	大阪大学大学院 人間科学研究科	100歳以上高齢者の心理的発達に関する質的研究-老年的超越の視点から-
⑫	個人	平山 亮	東京都健康長寿医療 センター研究所	息子介護者が支援ニーズを自覚および表明可能になるための心理社会的条件の探索
⑬	個人	大浦 明美	千葉大学大学院 人文社会科学研究科	アクティブシニアの後見活動におけるネットワークと社会福祉援助技術に関する研究
⑭	個人	児玉 寛子	東京都健康長寿医療 センター研究所	高齢者介護の新たな課題-介護終了後の家族介護者への継続支援に関する研究-
⑮	共同	鶴川 重和	北海道大学大学院 医学研究科	在宅高齢者生活機能向上ツールを用いた家庭訪問研究-経時的・中長期的な認知機能改善を目的として-
⑯	共同	中西 康祐	健康科学大学 健康科学部 作業療法学科	グループホームで暮らす認知症高齢者のQOLと関連する因子の検討-手段的日常生活動作(IADL)との関連を中心に-
⑰	共同	田淵 恵	関西学院大学 大学院文学研究科	高齢者の次世代支援場面における世代間相互作用の実験的検討-若年者からのフィードバックに着目した検討-

※共同研究の場合は代表者名を記載。